

(3) 担当部署

計画の 担当部署	名 称	株式会社ニュー・オータニ ファシリティマネージメント部
	電 話 番 号 等	03-3221-2940
公表の 担当部署	名 称	株式会社ニュー・オータニ マネージメントサービス部
	電 話 番 号 等	03-3221-2631

(4) 地球温暖化対策計画書の公表方法

公表方法	ホームページで公表	アドレス： https://www.newotani.co.jp/group/company/eco/
	窓 口 で 閲 覧	閲覧場所：
		所在地：
		閲覧可能時間
冊 子	冊子名：	
そ の 他	入手方法：	
	アドレス：	

(5) 指定年度等

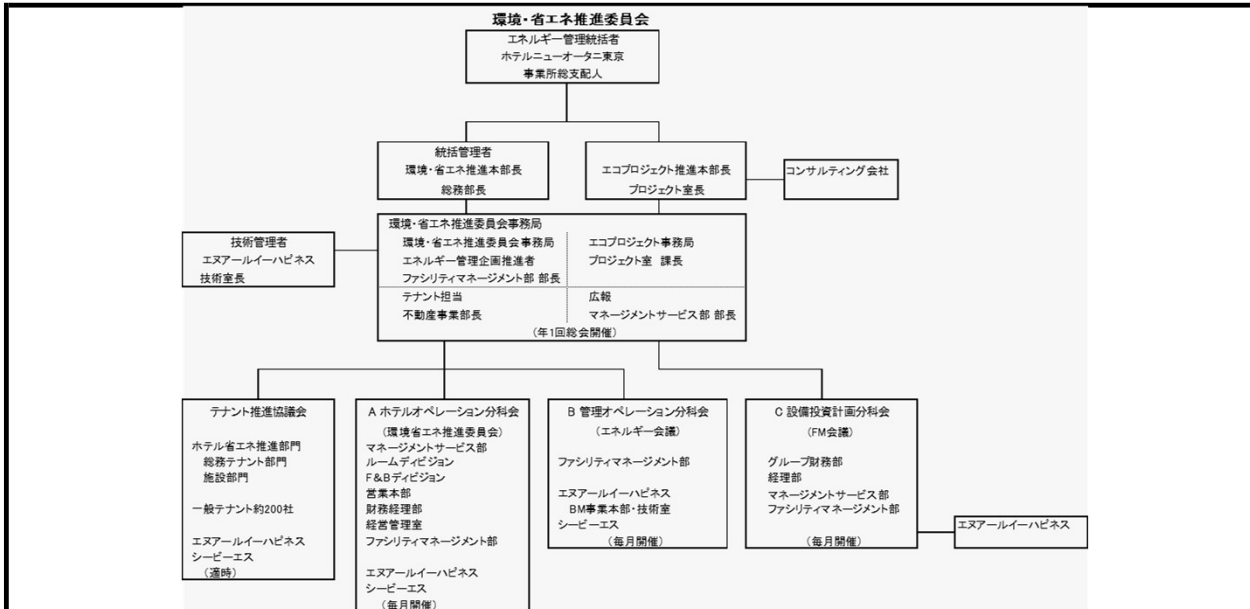
指定地球温暖化対策事業所	2009 年度	事業所の使用開始年月日	1964 年 9 月 1 日
特定地球温暖化対策事業所	2009 年度		

2 地球温暖化の対策の推進に関する基本方針

当社は、施設のリニューアルやエネルギー利用の高効率化、CO2の削減、リサイクルなど“エコロジー”と、快適さの向上を追及する“ホスピタリティ”の両立を目指し、「ハイブリッドホテルプロジェクト」を積極的に推進して参りました。「環境・安全への取り組みを一層強め、お客様の快適さを追及する」、これからの社会に求められるホテル像を“GREEN New Otani”と表わし、ニューオータニグループ全体でその実現と完成を目指して参ります。

再エネの導入・利用に関する取組みについて：
社会全体の目標の一つとして、導入へ向け景観に配慮した検討を継続して進めてまいります。

3 地球温暖化の対策の推進体制



4 温室効果ガス排出量の削減目標（自動車に係るものを除く。）

(1) 現在の削減計画期間の削減目標

計画期間	2020 年度から 2024 年度まで			
削減目標	特定温室効果ガス	第二計画期間ではお客様のご利用が好況のなか、設備改善や空調運用改善・啓発を行った結果、2019年度単年の削減率が29%を上回り、継続して削減することで第三計画期間は削減義務達成見込みとなった。 2021年度の東京2020大会や、新しい日常の中でお客様をお迎えするため、従来の改善を継続しながら設備強化や環境配慮を行い、第四計画期間（義務率見通35%）に向けた追加削減を目指す。		
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	当事業所から排出される特定温室効果ガス以外の其他ガスは、水道の使用および下水道の排水に伴うCO2の排出が主体となっている。井水利用や中水道の活用により水道水の使用量を削減とともに、節水型水栓の採用や入居テナントに対し節水の呼びかけにより削減を図る。業務上、上水を多く使う調理でも節水を進めるため、従来型の食器洗浄機や厨房機器を省エネ型へ更新を進める。		
削減義務の概要	基準排出量	59,630 t（二酸化炭素換算）/年	削減義務率の区分	I-1
	排出上限量（削減義務期間合計）	217,650 t（二酸化炭素換算）	平均削減義務率	27%

(2) 次の削減計画期間以降の削減目標

計画期間	2025 年度から 2029 年度まで	
削減目標	特定温室効果ガス	従来設備の省エネ更新や、効率化を図り、基準排出量の35%削減を目標にする。
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	引き続き節水を行なうことにより、其他ガスの削減を目指す。

5 温室効果ガス排出量（自動車に係るものを除く。）

(1) 温室効果ガス排出量の推移

単位：t（二酸化炭素換算）

		2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
特定温室効果ガス (エネルギー起源CO ₂)		46,082	45,658	44,809	44,502	42,230
其他ガス	非エネルギー起源 二酸化炭素 (CO ₂)					
	メタン (CH ₄)					
	一酸化二窒素 (N ₂ O)					
	ハイドロフルオロカーボン (HFC)					
	パーフルオロカーボン (PFC)					
	六ふっ化いおう (SF ₆)					
	三ふっ化窒素 (NF ₃)					
上水・下水		489	469	453	422	409
合計		46,571	46,127	45,262	44,924	42,639

(2) 建物の延べ面積当たりの特定温室効果ガス年度排出量の状況

単位：kg（二酸化炭素換算）/㎡・年

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
延べ面積当たり 特定温室効果ガス 年度排出量	158.5	157.0	154.1	153.0	145.2

6 総量削減義務に係る状況（特定地球温暖化対策事業所に該当する場合のみ記載）

(1) 基準排出量の算定方法

<input checked="" type="radio"/> 過去の実績排出量の平均値	基準年度：（ 2002年、2003年、2004年 ）
<input type="radio"/> 排出標準原単位を用いる方法	
<input type="radio"/> その他	算定方法：（ ）

(2) 基準排出量の変更

	前削減計画期間	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
変更年度						

(3) 削減義務率の区分

削減義務率の区分	I - 1
----------	-------

(4) 削減義務期間

2015 年度から 2019 年度まで

(5) 優良特定地球温暖化対策事業所の認定

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
特に優れた事業所への認定					
極めて優れた事業所への認定					

(6) 年度ごとの状況

単位：t（二酸化炭素換算）

		2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	削減義務期間合計
決定及び予定の量	基準排出量 (A)	59,630	59,630	59,630	59,630	59,630	298,150
	削減義務率 (B)	17.00%	17.00%	17.00%	17.00%	17.00%	
	排出上限量 (C = Σ A - D)						247,465
	削減義務量 (D = Σ (A × B))						50,685
実績	特定温室効果ガス排出量 (E)	46,082	45,658	44,809	44,502	42,230	223,281
	排出削減量 (F = A - E)	13,548	13,972	14,821	15,128	17,400	74,869

(7) 前年度と比較したときの特定温室効果ガスの排出量に係る増減要因の分析

増減要因	<input checked="" type="checkbox"/> 削減対策	<input type="checkbox"/> 床面積の増減	<input type="checkbox"/> 用途変更
	<input type="checkbox"/> 設備の増減	<input checked="" type="checkbox"/> その他	
具体的な増減要因	2017年度は、前年の機器運用を踏襲しつつ、さらに冬期の1棟冷熱源停止等踏み込んだ運用を実施。制服の刷新や、業務中の服装の柔軟な対応などお客様対応に支障を与えないようにしつつ、空調負荷削減に努めた。 2018年度は、例年に比べ早い気温上昇と、連続した酷暑日により、例年以上の夏期空調エネルギー増加となったが、ボイラーや客室空調システムの改善、冬期に暖冬によるガス大幅減少となり、前年比減となった。 2019年度は、東京2020大会を控え環境向上に伴う前年比増とならないように省エネ型機器の選定・運用とともに、一部外部供給終了や、1月からの感染症流行、テナント要因等で前年比減となった。 2020年度は、コロナ禍の営業体制のなかでエネルギー使用を抑え、前年比減で推移。		

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
		【特定温室効果ガス排出量の削減の計画及び実施の状況】			
1	120100	12_燃焼設備の管理	高効率型熱源機器等への更新	2011年度より	ボイラ更新
2	120200	12_冷凍機の効率管理	高効率型熱源機器等への更新	2012年度より	吸収式冷凍機を更新320RT
3	120200	12_冷凍機の効率管理	高効率型熱源機器等への更新	2013年度より	吸収冷凍機をターボ冷凍機700RTに更新
4	120200	12_冷凍機の効率管理	高効率型熱源機器等への更新	2016年度より	ターボ冷凍機をターボ冷凍機350RTと吸収冷凍機360RTに更新
5	120200	12_冷凍機の効率管理	高効率型熱源機器等への更新	2019年度より	吸収冷凍機をターボ冷凍機500RTに更新
6	120700	12_蒸気の漏えい及び保温の管理	蒸気バルブ等の断熱強化	2010年度より	
7	130100	13_空気調和の管理	空調機の変風量方式の導入	2010年度より	
8	130100	13_空気調和の管理	客室空調の省エネ改善	2018年度より	客室系統の熱源ロスを改善し、高層系統を3管式から2管式へ更新
9	130200	13_空気調和設備の効率管理	混合損失の防止	2014年度より	
10	130300	13_換気設備の運転管理	換気設備の変風量方式の導入	2011年度より	
11	130300	13_換気設備の運転管理	換気設備の変風量方式の導入	2019年度より	駐車場換気ファンのCO2制御及インバータ化
12	150100	15_受変電設備の管理	高効率変圧器への更新	2019年度より	20kVトランスを更新
13	150200	15_照明設備の運用管理	高効率ランプへの更新	2011年度より	毎年LED化の推進
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
		(再生可能エネルギーの設備導入及び利用の状況)			
71					
72					
73					
		【その他ガス排出量の削減の計画及び実施の状況（その他ガス削減量を特定温室効果ガスの削減義務に充当する場合のみ記載）】			
81					
82					
83					
		【排出量取引の計画及び実施の状況】			
91					
92					
93					

8 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価（自動車に係るものを除く。）

当社は1964年の開業時から環境対策に積極的に取り組み、特に近年は、
R-economy(1991年～)

・・・省エネルギーと資源リサイクルを実現するシステム(環境に調和した経済)

Hybrid Hotel Project(2005年～)

・・・地球環境への配慮がお客様の真の快適さにつながるホテルづくり(エコロジーとホスピタリティの両立)

Green NewOtani(2008年～)

・・・環境・安全への取り組みを一層強め、お客様の快適さを追求する

の方針のもと、

施設のリニューアル、エネルギーの有効活用、リサイクルなどのエコロジー活動を積極的に取り組んでいる。

<https://www.newotani.co.jp/group/company/eco/>

1. 事業所の省エネルギーの取り組み

環境・省エネルギー推進委員会を設置。

推進委員会のもとテナント推進協議会、ホテルオペレーション分科会、管理オペレーション分科会、設備投資分科会を定期的実施、それぞれの立場から省エネルギーの推進を図った。

2. 省エネルギー目標を明確にし、全社対応の活動を実施

1) 目標：2018年度比、電気使用量の 1%削減、ガス使用量の 1%削減。

分科会にて毎月のエネルギー使用量の把握と増減傾向のある検針場所の追求を継続して行った。

2) 啓発活動

①省エネポスターの発行を通じホテルスタッフへの広報活動。

②テナント広報を通じ省エネ行動を広報。

③同業他事業所との交流。

④クールビズ、ウォームビズの実施

⑤オペレーション分科会現場代表者を通じ、各部門での年間PDCA

3. 事業所の省エネルギー推進結果

2019年度のCO2排出量は、42,230tと、基準排出量の約29%減となった。

再エネの導入・利用に関する取組みについて：

現在、再エネの導入は行っていないが、東京ガスのカーボンニュートラルLNGを長期導入し、環境に配慮したガスを利用している。

今後も導入の検討や、供給会社と連携して環境負荷の削減を図りたい。